

vol.21

2026

令和8年



ACS HLDGS.



PRESS

広報誌ACSグループ・プレス

【本号からエーティック・プレスを改称しました】



『真の技術力の追求』を掲げ、新たな一歩

令和8年度がスタートして3カ月余りが過ぎました。皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げますとともに、本年度も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

本号より、「A-TiC PRESS」は「ACS PRESS」としてお届けすることとなりました。当社では、持株会社を中核としたホールディングス体制へ移行し、事業会社それぞれの特色を最大限に発揮できるよう、グループ経営体制の強化を進めてまいりました。それに伴い、本年度は経営理念を刷新し、「真の技術力の追求」をグループ全体の基本理念として掲げました。創業以来、「創意」「熱意」「誠意」を大切に歩んでまいりましたが、半世紀余りを経た今、建設コンサルタントとして真に求められる技術力とは何かを改めて問い直し、理念やビジョンの刷新とともに、新たな人事制度の試行運用も開始しました。

新たな制度では、求める人物像として「専門スキル」「自律」「協働・協創」「コラボレーション」の4つを評価項目に掲げています。専門分野で卓越した技術を身に付け、自らのキャリアに責任を持ち、顧客の課題に対して集合知による最適な解決策を提案し、新たな付加価値を生み出すことを評価の視点としています。

こうした理念や制度を社員に説明する際、私は「当たり前のことを当たり前にしっかりとやる」「自分との対話を通じて成長を志向してほしい」と伝えています。自分の現在地を知り、目指す場所(目標)を定め、なぜそこへ行きたいのか(目的)を自問する。そこから課題(ギャップ)が明らかになり、やるべきことが具体化され、計画へとつながっていきます。

また、新しいことに挑戦すれば、ミスや失敗が生じることもあります。しかし、大切なのは失敗そのものではなく、それを自らの手で迅速にリカバリーし、しっかりと検証して次へつなげることです。失敗は成長の種であり、その積み重ねが人を育て、組織を強くすると考えています。

的確な人事評価は、社員の働く意欲と会社への帰属意識を高め、人財の育成・定着を促し、企業の成長を支える重要な原動力となります。総合建設コンサルタントには、専門技術はもちろん、発注者のニーズを的確に把握する力、円滑なコミュニケーションを築く力、考えを言語化する力、そして、それを的確に伝えるプレゼンテーション能力などが求められます。

当社では、新たなグループ基本理念と新たな人事制度のもと、人財を着実に育成し、顧客との信頼関係をさらに深めることで、地域社会にとって「なくてはならない会社」へと進化してまいります。



ACSグループ代表 舟田 幸太郎

ACS

"Co-Creating Tomorrow

～未来を共に創る～

令和8年度、当社には新たに6人が入社しました！
当社の未来を共に創っていく6人に仕事にかける思い
などを聞きました。

(株) エーティック
構造技術部
吉岡 祐稀
Yuki Yoshioka

受注に貢献できるような仕事を

室蘭工大建設システム工学科を卒業し、札幌市内の建設コンサルタント会社で20年ほど勤務した後、この春入社しました。前職では建設管理部や市町村の河川計画・構造物設計などの業務を担当しました。今の職場では開発建設部の仕事ですが、自治体の業務とは仕事の進め方が違い、まずは早く慣れて、会社の戦力になりたいと思います。今後は、提案書をしっかりと書き、受注につながる仕事をしたいと思っています。札幌市出身。49歳。

技術士補の資格取得に挑戦

室蘭工大創造工学科建築土木工学コースに在籍中にインターンシップで訪れ、会社の雰囲気の良いさと部署を超えた連携などが印象に残り、入社を決めました。今の仕事は、橋梁点検業務などの補助が中心です。知らないことばかりですが、先輩が分かりやすく教えてくれます。自分も将来教える立場になったら、と考えると学ぶことが多いです。まずは技術士補の資格を取り、技術士に向けて第一歩を踏み出したいですね。青森県八戸市出身。23歳。

(株) エーティック
構造技術部
村上 大介
Daisuke Murakami

橋梁に係わる仕事で会社に貢献

北見工科大学を修了し、東京の建設コンサルタント会社で勤務後、札幌で働くことを希望し、入社しました。第一印象は「風通しの良い会社」で、入社後もその思いは変わりません。現在の仕事は道路構造物設計の補助業務が中心です。今後は知識と技術をしっかりと蓄えて、橋梁に係わる仕事で会社に貢献していきたいと思っています。趣味は中華料理。さっぱりとした四川風の味付けで作りますが、彼女にも好評です(笑)。27歳。

(株) エーティック
構造技術部
吉田 明燐
Meiyo Yoshida

現場での判断の重要性を学ぶ

入社のきっかけは、会社主催の説明会に参加し、座談会形式で行われた内容が印象的だったことです。北大理学院では火山の研究が中心でした。今の仕事は地すべりの現場に行き、データの回収などを行っています。先輩の仕事を見ていると、仕事のやり方、進め方が参考になります。現場の仕事はその時の判断が重要だということをおぼることができますね。理学院で専攻していたこともあり、山登りの会というサークルに入っていて、休日には登山を楽しんでいます。札幌市出身。27歳。

(株) エーティック
調査部防災地質課
高橋 佳佑
Keisuke Takahashi

現場経験を積んで的確な判断を

北見市出身で、大学も北見工大に進み、環境防災コースでメタンハイドレートを研究しました。建設コンサルタント業界が志望で、大学の合同説明会で、人当たりや風通しの良さを感じ入社しました。一人暮らしも北見市以外での生活も初めてです。今の仕事はダム現場に行き計測業務の補助をしています。先輩を見ていると現場を知っていることの経験が的確なデータ処理に生きているな、と感じ、今後は現場経験を積んで、的確な作業ができれば、と思っています。北見市出身。24歳。

(株) エーティック
計測部
銀田 快斗
Kaito Ginda

早く一人前の技術者に成長を

北海道科学大学人間社会学科を卒業後、電気関係の会社に就職しましたが、縁あって入社しました。3ヶ月ほどアルバイトとして、計測業務の補助をしていましたが、その時に人の印象や現場の雰囲気がとても良く、「この会社で働きたい」と思いました。出張もすでに経験しています。現場では分からないことばかりですが、先輩や上司が分かりやすく親切に教えてくれます。早く仕事を覚えて、会社に貢献できる技術者になりたいと思っています。札幌市出身。24歳。

(株) エーティック
計測部
渡辺 俊介
Shunsuke Watanabe

17

技術者列伝

田中 豊

後編

～近代橋梁工学の基礎を築いた理論家～



Yutaka Tanaka

土木学会附属土木図書館 提供

復興局での役割を全うし橋梁技術者として名声を高めた田中豊は、鉄道省に設立された鉄道橋(鋼橋)を担当する新部署に着任します。また兼任教授として東京帝国大学で後進の指導に励む傍ら、新たな技術研究に没頭していくのです。思いがけず橋梁技術の道を進んだ田中は、復興局の元スタッフや大学で育成した技術者らを率い、日本の橋梁界を先導していくこととなるのです。

○復興局の技術保存

1927(昭和2)年復興が一段落した後、田中は復興橋梁事業を印刷物として記録に残すよう指示しました。短期間ながらも復興局で研鑽・習得された橋梁技術の向上は目覚ましいものであり、その後の日本の橋梁技術発展の礎になるようにと考えたのでしょう。

設計図や設計計算書の保存に復興局職員が協力し、後世に復興事業史と橋梁技術を残すべく尽力したのです。田中に師事した技術者は復興局の解散後、各方面で活躍し、それぞれが名を残すこととなるのです。

○鉄道省への復帰

1928(昭和3)年、田中は古巣の鉄道橋設計を担当する第四科長として鉄道省に復帰します(大臣官房研究所)。復帰後は、東武伊勢崎線隅田川橋梁、総武本線隅田川橋梁など、数々の鉄道橋設計を自ら手掛けています

車窓景観を考慮して高いトラス橋を避け設計された東武伊勢崎線隅田川橋梁は、大変珍しい中路式の橋梁です。戦後に東大を訪れた進駐軍は、その高いデザイン性に大きな関心を示し、図面を持ち去りました。このため研究室に残る多くの図面のうち、当橋だけが欠けることとなったのです。

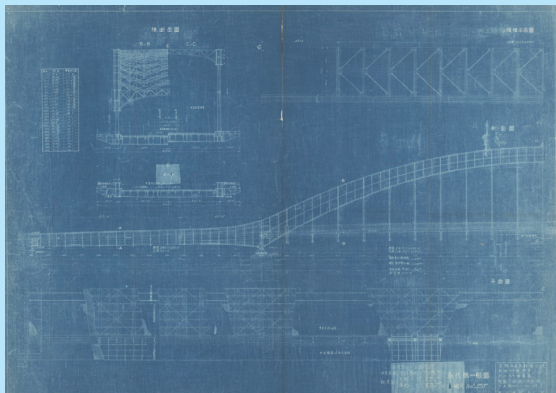
総武本線隅田川橋梁で採用したランガー桁は国内初の事例であり、復興局の橋梁技術の集大成となる設計でした。

・東武伊勢崎線隅田川橋梁

(複線中路カンチレバーワーレントラス(3径間)：昭和6年完成)

・総武本線隅田川橋梁

(3径間ゲルバー下路式ランガー桁：昭和7年完成)



永代橋の図面

(東京大学工学・情報理工学図書館 工1号館図書室A 所蔵)



東武伊勢崎線隅田川橋梁(昭和6年完成)



総武本線隅田川橋梁(昭和7年完成)

その他にも鉄道橋としては日本初のタイドアーチ橋である松住町架道橋、橋長44mの単径間鉸桁を採用した昭和橋などを設計しました。様々な橋梁を手掛けた田中でしたが、長径間の鉸桁構造を理想的と考えていたようです。後に東大土木工学科で橋梁工学を教えた平井敦に、簡単なプレートガーダー橋が最も好きだと述べ、昭和橋を自身最高の傑作としたそうです。



松住町架道橋(昭和7年完成)



昭和橋架道橋(昭和7年完成)

○後進の育成

田中は1925(大正14)年から東京帝国大学の教授を兼任していましたが、1934(昭和9)年に鉄道省を辞任して橋梁工学の教授として後進の指導に専念しました。この時、東京大学で鉄道工学を指導していたのは、かつての上司那波光雄でした。那波が鉄道工学の大学講師として在籍した1936(昭和11)年まで、同じ学び舎で共に教鞭をとりました。

1937(昭和12)年の日中戦争開戦後、新規の大型橋梁事業をほぼ実施できない期間には、田中は課題としていた溶接とデュコール鋼(永代橋で初適用)の研究に取り組んでいます。溶接の最大利点は橋梁の鉚結に比べ鋼重を軽減できることですが、復興局時代の「鋼鉄道橋製作仕法書」では技術が遅れていたため、溶接自体が禁じられていたのです。太平洋戦争が終わった1945(昭和20)年に、田中は第33代土木学会の会長に就任します。そして1948(昭和23)年に大学を退官する頃には、成瀬勝武(日本大学教授)や福田武雄(東京大学教授)をはじめ、その後の橋梁界を牽引できる多くの技術者が育っていたのです。

○大学退官後の活動

大学退官後、田中は隅田川橋梁の多くを製作した横川橋梁製作所の技術顧問となっています。そして1961(昭和36)年の本州四国連絡橋調査委員長が田中の最後の仕事となりました。当時検討されていたルートは5ルートあり、耐風安定性や水中橋脚の耐震性などについての課題を取り上げ、長径間吊り橋の鉄道橋としての問題点を検討していました。4か年の予定で調査を行っていた1964(昭和39)年、体調を崩した田中は、調査結果を待たずそのまま帰らぬ人となったのです。

○田中賞の設立

田中が逝去した後の1965(昭和40)年、土木学会は「田中賞」を設けます。当賞は橋梁・鋼構造工学に関する優秀な業績に対して授与されるもので、遺族からの寄付と賛同する有志・個人、団体の寄付による基金により設立されました。常に新しい橋梁技術を貪欲に追求し続けた田中の理念は、様々な場所で育て上げた多くの後輩技術者らによって、ここに結実したのです。



井形 淳

社会基盤技術部 技師長 工学博士/技術士(建設部門)

技術者から教育者へと転身し多くの後継者を育てた田中豊は、人生の最後まで新しいことに挑戦しました。これは田中豊が貫いた新技術を追求し続ける姿勢そのものではないでしょうか。その精神は本人死後、形を変えて受け継がれていくと考えます。

1967年札幌市生まれ。1993年室蘭工業大学大学院建設システム工学修了、1996年室蘭工業大学大学院建設工学修了。北海道開発局開発土木研究所を経て、建設コンサルタント会社に勤務。2015年(株)エーティック入社

NEWS 共同開発の「地山応力測定装置」が改良を重ね、新たに特許を取得



当社と株式会社フジタ、北海道大学が共同で開発を進めている「地山応力測定装置」が、さらなる改良を経て新たに特許（特許第7802279号、特許第7804276号）を取得しました。本装置は、トンネル掘削の際、初期応力を測定・解析することで、施工の安全性や作業効率を高めるシステムです。初期応力測定は、昭和から平成にかけて国内外の鉱山で同様の実験が行われていたものの、過酷な環境下での安定したデータ取得や、パイロット孔から装置を安全に回収する仕組みの構築が難しく、長年実用化への改良が求められていました。この課題に対し、長年トンネル計測に携わってきた当社の知見と、フジタ、北大の技術を結集し、数年にわたって研究開発を続けてきました。

前回の特許取得モデル（2020年型）では、装置の設置・回収時の安定化や接点の摩擦低減を図ったものの、マグネット方式によるセンサ収納機構制御の難しさや、接点と孔壁との干渉に



開発を担当した釣賀課長(右)と中村副主幹(左)

起因するデータの不確実さ、さらにはボアホール内での確実な固定と回収機構に課題を残していました。今回の改良バージョン（2022年型）では、軸方向センサの接点のリフト量を従来型よりも大きくすることにより、装置設置・回収時に接点に与える摩擦を大幅に低減することに成功しました。これにより、設置・回収時に生じていたセンサの変形を大幅に抑制し、1ミリメートルの100分の1以下という微細な変位測定の精度をさらに安定させました。また、装置の設置・回収機構を従来のエアチャックから、空気圧式ホルダ「ラバーハンド」へと変更しました。これにより、センサ端部を把持する範囲が広くなり、泥水にさらされる過酷な孔内から、装置を安全かつ確実に回収するシステムを確立しました。さらに高精度デジタルセンサを組み込んだ独自の校正装置を測定用に導入し、現場での測定データの信頼性を向上させるなどの改良を図りました。

今後について、開発を進めてきた計測部の釣賀雅人課長とトンネル技術室の中村健太副主幹は「実際の計測現場での利用を通じて、理論値と実測値の違いなどを検証し、地山内の初期応力の数値を観測し、地質調査業務への参考データとするなど、活用の分野を広げていきたい」と話しています。



新たに特許を取得した地山応力測定装置

作業服をリニューアル！ 「旧作業服をリユース」として活用

ことし4月から、当社の作業服を一新しました。社内改革推進委員（眞道一生委員長）の職場環境改善部会が取組を進めていたもので、部会での議論と社員の意向調査などを踏まえて、新しい作業服への切り替えを検討。今年4月から新しい制服が社員に配布されました。

作業服の選定にあたり、社員へのアンケートを実施し、作業しやすい素材や、ポケットの配置など多くの意見が寄せられました。こうした声を踏まえて一新された作業服は、屋外でも快適な作業ができるよう、デザインと品質にこだわり、快適性と安全性、企業イメージの向上、そして適正な価格など、さまざまな要素を踏まえて決定しました。また、リニューアルに際しては、既存の制服の有効活用も検討しました。そ



「SDGsに貢献を」と話す佐藤部会長

こで活用したのが旧作業着をリユースするというサービスです。日本リユースシステム株式会社が企画・運営しているもので、不要になった衣類や服飾雑貨を専用回収キットで送ることで、発展途上国への古着リユースとポリオワクチン寄付、雇用創出など複数の社会貢献につながる取組です。当社では上着やズボン500着あまりを3月下旬から回収しました。佐藤朋也部会長は「こうした取組を通じて、国際社会のSDGsにわずかながらも貢献できたと考えている」と話しています。



認定証



カンボジア国モンドルキリ州ジャングル店

道内トンネル文献あれこれ

令和7年12月～令和8年6月において、専門雑誌等に発表された、北海道内のトンネルに関する論文・報文等のリストを紹介します。トンネル関係者の方々へ最新情報を提供いたします。なお、詳細を知りたい方は弊社までお問い合わせ下さい。

新幹線・鉄道

- 1 若公雅敏, 平岩大亮, 明石太郎, 三河内永康: 大規模崩落の発生と対策(その2)ー北海道新幹線 野田生トンネル(北工区)ー, トンネルと地下, Vol.56, No.12, pp.7-17, 2025.
- 2 平塚流聖, 岡村貴彦: 海外製ベルトコンベヤの使用に対する報告ー北海道新幹線、磐石トンネル(北)他ー, トンネルと地下, Vol.56, No.12, pp.7-17, 2025.

その他

- 3 西谷友幸, 萩原健司, 藤枝大吾, 青柳和平: 深度500mに向けた立坑掘削における覆工コンクリートの仕様検討および情報化施工, 2026トンネル技術研究発表会論文集, pp.52-62, 2026.
- 4 青柳和平, 田村友識 尾崎裕介, 石井栄一, 本島貴之, 菅原健太郎: 幌延深地層研究センターの深度500mの調査坑道を対象とした掘削損傷領域の事前予測, 第51回岩盤力学シンポジウム講演集 講演番号21, pp.119-124, 2026.
- 5 尾崎裕介, 緒方奨, 中岡健一, 清水浩之, 安原英明, 赤城俊文, 青柳和平, 福田大祐: 幌延深地層研究センターを対象とした坑道掘削時の周辺岩盤の練成現象理解を目的とした一斉解析, 第51回岩盤力学シンポジウム講演集 講演番号22, pp.125-130, 2026.

新役員紹介

「なくてはならない会社」の一員として 常務執行役員 藤田 聡



この春に札幌開発建設部調査官を最後に北海道開発局を退職し、6月1日から勤務しています。北海道開発局には平成元年に関西大学を卒業後入局し、札幌開発建設部を皮切りに、函館、網走などの開発建設部や本局、北海道運輸局での勤務も経験しました。37年間の行政経験の中では、公物管理事務に長く従事しました。まだ入社したばかりですが、地域の安心・安全に貢献する「なくてはならない会社」の一員として尽力していきたいと思っています。

2026年度ACSグループ研修会を実施しました

2026年度ACSグループ研修会を4月24日、本社2階協創ラウンジで開催しました。「全社研修会」を「ACSグループ研修会」に改称して4回目の開催となります。研修会では、まず舟田幸太郎ACS Holdings代表取締役(エーティック社長)が「グループ経営の根幹～みなさんと共に叶えたいこと～」をテーマに、「なくてはならない会社」となるために日々の仕事で取り組むべきことなどを伝えました。

その後、岡田正之アクティック代表取締役と土谷雅人J-サーチ代表取締役がそれぞれの会社の経営方針を説明。休憩を挟んで、今春から導入された人事制度について、担当役員らから、新制度のねらいや評価体制などを解説しました。



新しい人事評価制度などを説明しました

2026 年度上期安全大会を開催しました

2026年度上期ACSグループ安全大会を5月14日に本社2階で開催しました。舟田幸太郎社長は「当たり前なのに真剣に取り組むことが安全の本質。迅速性と正確性を心掛けながら無事故・無災害を達成しましょう」との決意を語りました。大会には協力企業を含めて約100人が参加。AIG損害保険札幌支店の担当者の講話に続いて、木幡優一安全衛生委員長が、2025年度の活動報告と26年度活動計画を説明しました。

大会の最後には、社員を代表してトンネル技術室の野宮良惟さんが「無事故・無災害の実現と危険予知活動の実施、相互指摘の風土の構築などを進めていきます」と決意表明しました。



「無事故・無災害の達成を」と呼び掛ける舟田社長



株式会社 エーティック

所在地 〒063-0801 北海道札幌市
西区二十四軒1条5丁目6-1
代表者 代表取締役社長 舟田 幸太郎
創業 昭和48年1月31日
資本金 48,000千円
許可・登録 建設コンサルタント
建04第3923号、地質調査業
登録 質06第974号、測量業
登録 第(12)5832号、補償コ
ンサルタント補02第2884号、
一般建築士事務所登録(石)
第4358号、環境計量証明事
業登録 第704号第807号、
一般建設業 (般-2)石第
14831、一般労働者派遣業
派01-010122、ISO9001:2015、
NJK-263



株式会社 アクティック

所在地 〒063-0801 北海道札幌市
西区二十四軒1条5丁目6-1
代表者 代表取締役 岡田 正之
設立 令和4年12月1日
資本金 10,000千円
許可・登録 一般建設業(般-4)石
第24552号
一般労働者派遣業
派01-301561



株式会社 J-サーチ

所在地 〒063-0802 北海道札幌市
西区二十四軒2条4丁目7-17
二十四軒中央メディカルプ
ラザビル2階2G号室
代表者 代表取締役 土谷 雅人
設立 平成24年2月20日
資本金 4,000万円
許可・登録 建07第11200号
一般労働者派遣業
派01-301603



SNS にて情報発信中！

編集後記

物価高もあり、今年の夏は「お財布との戦い」を強いられそうです。しかし、北海道の短い夏をリフレッシュを兼ねて楽しみたいですね。海、山などの自然を満喫し、花火大会や野外イベントなど、日常から少し離れて、日々の仕事で疲れた体と心のリセットしてみてもいいでしょう。節約上手な方は、工夫を凝らして夏を満喫してくださいね。

広報委員会 広報誌部会